

弁天町エリアのまちづくりについて

令和6年10月8日

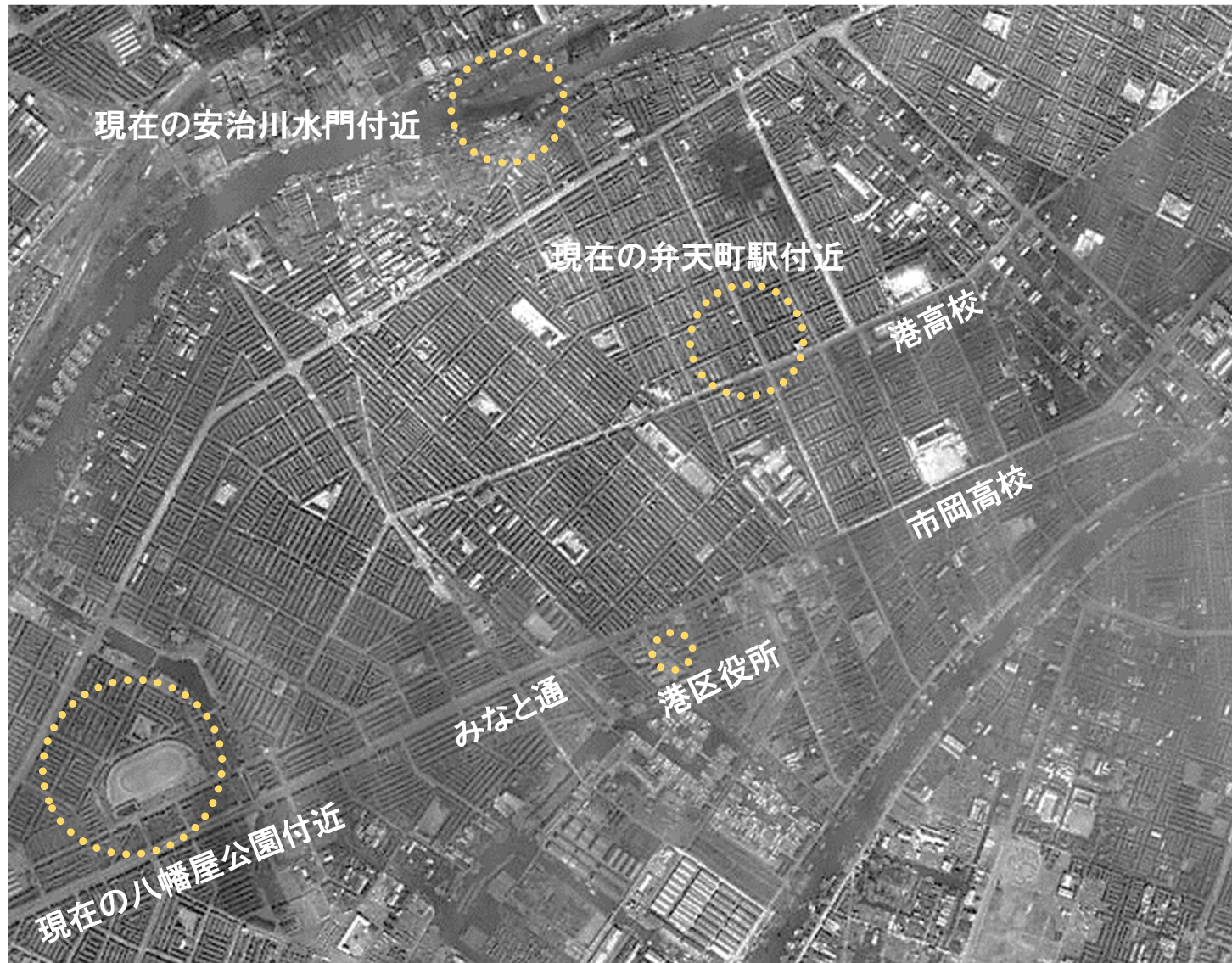
大阪市港区役所

■ 港区のまちづくり年表

1889(明治22)	大阪市制施行。市岡新田はじめ各新田は西成郡川南村となる
1903(明治36)	築港大栈橋(現中央突堤)完成。築港大道路(現みなと通)開通。大阪市初の市電(築港 栈橋～花園橋)開通
1925(大正14)	第2次市域拡張により港区誕生。(面積は全市中第4位、人口は第1位)
1946(昭和21)	港地区復興土地区画整理事業開始。
1961(昭和36)	国鉄弁天町駅開業(大阪環状線全通)。地下鉄中央線 大阪港～弁天町間開通。
1962(昭和37)	交通科学館開館。
1963(昭和38)	国道43号開通。
1964(昭和39)	地下鉄中央線弁天町～本町間開通。
1965(昭和40)	中央大通(都市計画道路築港深江線)開通。
1966(昭和41)	弁天ふ頭完成、内航客船ターミナルを天保山栈橋から移転。
1967(昭和42)	大阪市総合計画策定。総合計画に弁天町の副都心構想が位置付けられる。
1984(昭和59)	大阪市教育センター開設。弁天町バスターミナル供用開始。
1992(平成4)	港地区復興土地区画整理事業終了。
1993(平成5)	弁天駅前開発土地信託事業としてオーク200完成。
1995(平成7)	弁天ふ頭発着の航路が全て廃止。
2014(平成26)	交通科学博物館閉館。弁天町バスターミナル廃止。
2015(平成27)	大阪市がオーク200を売却(2018年大阪ベイタワーに名称変更)
2024(令和6)	港区土地区画整理記念・交流会館(区民センター、図書館等の複合施設)の完成

■ 港区のまちづくりの変遷（大正時代～昭和初期）

大正時代から昭和初期にかけて大阪港は、昭和14（1937）年に貨物取扱量等が日本で最大となり、背後地である港区は大阪市でも最も多くの人口を擁する区となった。



昭和17年頃の港区中心部

■ 港区のまちづくりの変遷（戦災復興土地区画整理事業）

施行前後の比較（港区全域）

昭和23年



令和2年



施行中と施行後の比較

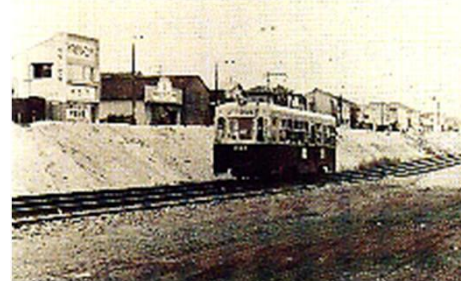
■ 弁天町駅付近



■ 八幡屋付近



■ 港晴付近



■ 弁天埠頭付近



■ 弁天町駅周辺の開発

昭和36（1951）年4月に環状線弁天町駅が開業、同年12月には地下鉄弁天町～大阪港間が開通した。また、阪神間を結ぶ国道43号と大阪の東西軸である中央大通が交差する大阪市西部エリアの交通の要衝として発展してきた。

昭和36年頃の弁天町駅付近



工事中の国道43号（弁天町駅付近）



■ 弁天埠頭の整備

昭和23(1948)年から始まった安治川の浚渫拡幅による大阪港の内港化計画により、安治川内港の上流部に昭和40(1965)年に整備した埠頭で、関西汽船が大阪～松山～別府便を、加藤汽船が小豆島・高松便を運航していた。

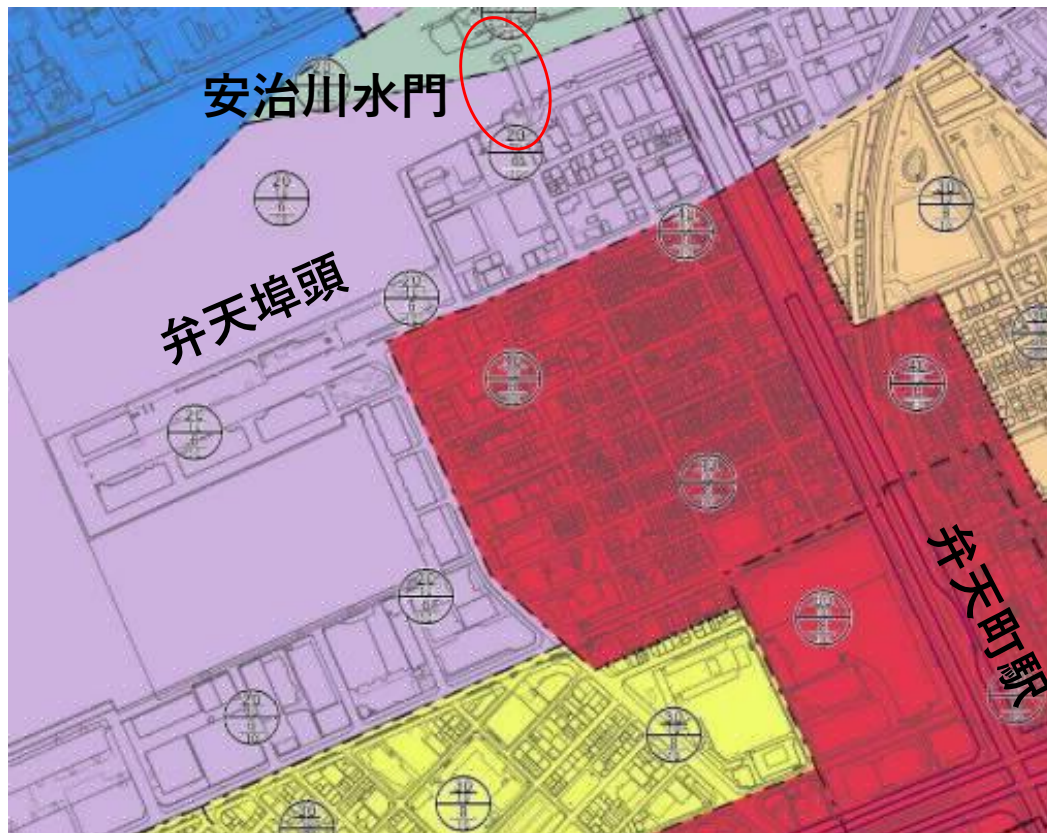
モータリゼーションの進展により、旅客ターミナル機能は弁天埠頭から南港フェリーターミナルへ移り、平成7年(1995)に弁天埠頭発着の定期便は全て廃止された。



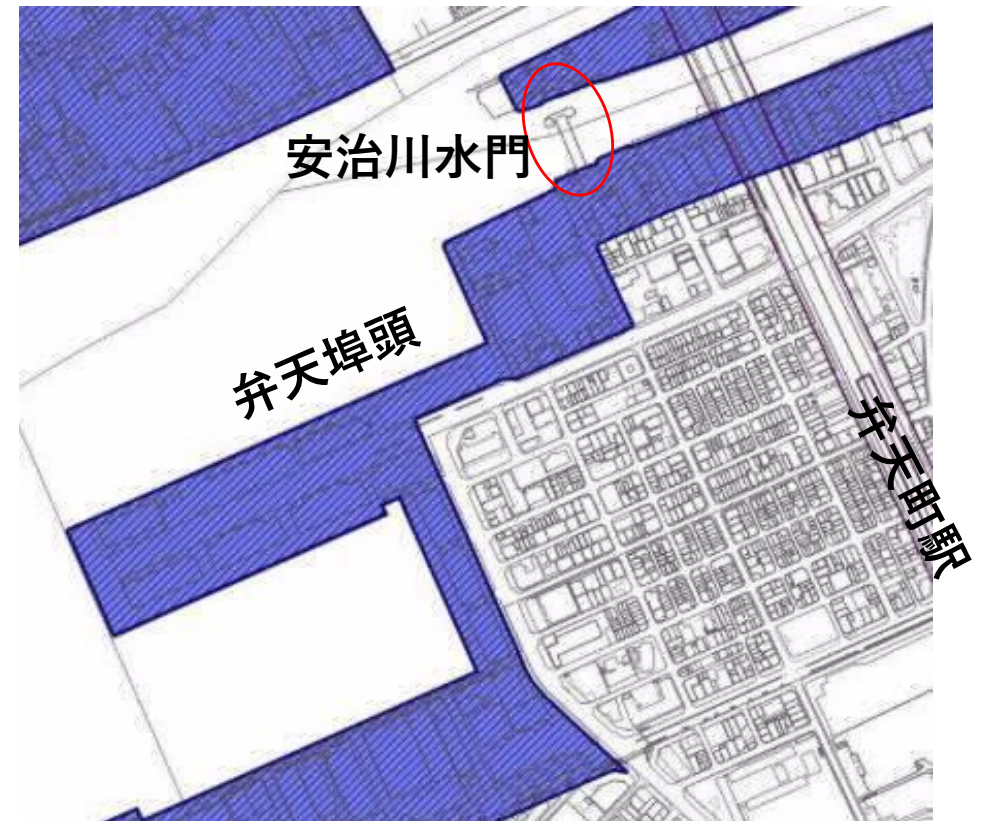
本日の出帆船名ご案内					
航路名	出帆時間	船名	寄港地		
別府	観光一便	7.20	むらさき丸	神戸 高松 高知	
	観光二便	16.30	くれない丸	神戸 高松	
	普通便	19.30	るり丸	神戸 今治 高知	
高松	普通一便	13.30	山水丸	神戸 坂手	
	普通二便	20.40	あけぼの丸	神戸 坂手	
	水中翼船	8.00	はやかせ	神戸 坂手	
北九州	四国回り	9.00	太平丸	神戸 高松 高知	
	一便	9.00	ふたば丸	神戸	
	二便	16.00	さくら丸	神戸	
小松島	三便	22.00	ふたば丸	神戸	
高知		18.30	明石丸	神戸 甲浦	
	水中翼船	9.00	はやて2		
洲本					
徳島	昼便	12.00	あき丸	神戸	
	夜便	21.20	うらら丸	神戸	

■ 弁天町エリアの用途地域等

弁天町エリアの用途地域は、駅を中心に商業地域が主となっている。また、安治川沿川は、臨港地区に指定され、港湾物流機能に特化した土地利用が図られている。



- | | |
|---|---|
|  第一種住居地域 |  商業地域 |
|  第二種住居地域 |  準工業地域 |



- | |
|--|
|  臨港地区 |
|--|

■ 安治川水門周辺の港湾計画

安治川水門周辺の港湾計画については、緑地、都市機能用地、交流厚生用地となっており、水辺を活かしたにぎわいや憩いの空間形成の方向性が示されている。



港区のまちづくりの方向性を定めた「港区エリア別活性化プラン」において、弁天埠頭等の水辺空間において、水辺空間の利活用に向けた取組みを進めていくこととしている。

【取組みの方向性①】
大阪ベイトワースを中心とした弁天町駅周辺エリアのにぎわいの創出

【取組みの方向性②】
もと市岡商業高等学校跡地の民間活用推進

【取組みの方向性③】
弁天町駅周辺のバリアフリー化の推進

【取組みの方向性④】
水辺空間の利活用の推進

【取組みの方向性⑤】
港区土地区画整理記念・交流会館を拠点としたまちづくりの推進

【取組みの方向性⑥】
磯路桜通りの港区コミュニティロードとしての位置づけと取組み

■ 弁天埠頭エリアのにぎわいづくり事例

弁天埠頭の水辺空間や舟運を活用した社会実験イベントを開催した際には、多くの集客があり、弁天埠頭エリアの持つポテンシャルを可視化することが出来た。

